



釣り人集う シーズン到来 ～箒川溪流釣り解禁～

4月2日に塩原温泉街を流れる箒川で溪流釣りが解禁され、県内外から訪れた約1,200人が魚との駆け引きを楽しみました。午前5時のスタートとともに川面に竿を垂れると、ものの数秒で釣り上げられるヤマメやニジマス。入れ食い状態の場所もあり、せわしなく竿を動かす釣り人の中には、網カゴの中に50匹以上の魚を蓄える強者も。東京都から訪れた60代の男性は「魚が糸を引いたときに伝わる振動が、釣りの醍醐味ですね」と話していました。



まちを駆け抜ける 熱い疾風 ～ツール・ド・とちぎ～

3月31日から4月2日にかけて開催されたサイクルロードレース「ツール・ド・とちぎ」。県内18市町を巡る約320kmのコースを舞台に、14チーム61人ものプロレーサーが熱戦を繰り広げました。

本市を通過した大会2日目の4月1日は、茂木町～那須町までの約100kmのルート。沿道に駆け付けた観客の前を、時速40kmを超えるスピードでかけるレーサーたち。急な上り坂に差し掛かった彼らからは、熱い息遣いが聞こえてきました。



↑ぴったり息の合った子ども疏水太鼓 → 先人への感謝と将来への決意を述べた小学生2人の意見発表 ♡桜の下で餅がテンポよくつきあげられる ↓野菜をふんだんに使った開拓なべ



恵みの水に感謝を込めて ～開こん記念祭～

全ての生き物が生きるうえで欠かせない“水”。不毛な原野であった那須野が原に疏水を開削し、命の水を導いた先人たちへの感謝を込めて、4月14日に開こん記念祭が開催されました。

雲一つない水色の春の空と、あたりを染め上げる淡いピンク色の桜。子どもたちによる疏水太鼓の鼓動は会場に小気味よく響き、春の息吹の喜びを表現しているよう。さらに、会場内では開拓なべや芋串、餅などが振舞われ、老若男女が思い思いにのどかな時の流れを楽しみました。



よりすぐりの牛たちが集合 ～青木農業祭～

桜が見ごろを迎えた4月16日、青木サッカー場で青木農業祭が開催されました。ホルスタイン共進会(美牛コンテスト)には、市内からよりすぐりの牛が参加。一定のペースでゆっくりと会場を周回する牛の列。時より列をはみ出してしまふ牛と、元に戻そうとする酪農家との戦いは大迫力でした。

春のぼかぼか陽気に誘われ、会場には多くの家族連れの様子が。そして、地元料理の美味しそうな匂いに誘われて、長蛇の列を作っていました。



未来のスーパージョッキーを夢見て ～観桜乗馬～

接骨木の地方競馬教養センターで春の風物詩となっている観桜乗馬。今年は4月13日に同センターの新入生である97期生12人と96期生8人が参加。暖かな日差しが降りそそぐ桜並木を、初々しい若者たちが練り歩きました。4月に広島県から入所し同センターで現在唯一の女性騎手候補生、濱尚美さん(15歳)は「馬と協力して、男性に負けにくいぐらい皆から憧れを抱いてもらえるような騎手になりたい」と将来に期待を膨らませていました。



会場をパンキで染めまくれ ～エキ・ファンク・フェス～

高校生が企画立案に参加したイベント「エキ・ファンク・フェス」が、(仮称)まちなか交流センターの建設予定地の空き地を利用し、3月26日に開催されました。細やかな春の雨が降り注ぐなか、子どもたちの間で流行っている人気テレビゲームを模した「リアルプラトゥーン」や、テレビ番組でお馴染みのぬるぬるのローションを使用した相撲大会を実施。あいにくの雨にも負けず、子どもたちは普段なかなかできない体験に大はしゃぎしていました。



ひときわ輝く三頭の獅子頭 ～三本木の獅子舞～

毎年3月下旬、疫病退散を祈願し、三本木延命地蔵尊に奉納される市指定無形民俗文化財・三本木の獅子舞。その昔、奉納を一時中断した際に伝染病に襲われたため、他地域から獅子舞の伝授を経て奉納を再開したと伝えられています。3月26日の本祭に先立ち、前夜に宵祭りが行われ、本祭同様、笛の音に合わせて3頭の獅子が約70分かけて22の舞を奉納。獅子が歌いながら舞うケースは珍しく、訪れた人を楽しませる理由の一つになっています。